

鏡には、神仏思想をあらわす神仏や竜、虎などの霊獣を、半肉彫で描き出した文様があら、縁の部分の厚く平らになっっているのが特徴です。

神島の八代神社にある神宝の中に、画文帯神獸鏡（がもんたいしんじゅうきょう）と呼ばれる青銅鏡があります。この鏡は、今から1500年ほど前の古墳時代の鏡ですが、卑弥呼が中国の魏からもらったとされる三角縁神獸鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）と並び、この時代を考える上で重要な鏡とされています。

鏡は、日本各地で主に古墳（こふん）と呼ばれる当時の支配者の墓から出土する場合があります。しかも、地域を代表する古墳から出土するものが一般的です。県内でも、亀山市の井田川茶臼山古墳や、明和町の神山1号墳などその地域を代表する古墳から出土しており、同じ文様の鏡が東海地方に比較的多く確認されていることがわかっています。

しかし、神島には、そのような大きな古墳が確認されていません。なぜ、この鏡が残さ



八代神社の神宝「画文帯神獸鏡」
竜などの霊獣が浮き彫りされています

神島八代神社神宝の謎①
卑弥呼の鏡に匹敵する鏡！
〜画文帯神獸鏡

鳥羽のお宝
再発見!



vol.11

教育委員会生涯学習課
☎ 1268

れているのでしょうか。それを考える上で参考になるのは、福岡県の沖ノ島です。沖ノ島でも、古墳はありませんが三角縁神獸鏡がたくさん出土していて、ほかに刀剣や石製品などなんと約8万点の遺物が出土しています。沖ノ島の祭祀は、その航海安全を祈願するために、ヤマト政権の命によって執り行われたと考えられており、神島でも規模こそ違っても、国家的な祭祀を行っていた可能性があります。今後、これらの遺物の調査を進めることにより、この鏡の意味が明らかになってくるでしょう。

みんな子育て



子育て広場
だっこでほっと

もうすぐ春

vol.8

子育て支援センター
☎・FAX 7221

まだまだ寒さが残りますが、あちらこちらで春のにおいを感じようになっています。小さい子どもたちにも、季節を感じる力があるのでしょか。お家でも、「お外へ行きたいよ」とせがんでいることでしょうか。

乳幼児期は、まるで春の芽吹きのように身体の発育、運動発達に著しい変化がみられる時期です。

2〜3か月になると、あやすとほほえんだり、大人の出した指をギュッと握ってきます。そして、いつの間にか寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、ひとり歩き…。そのたびに「だっこ」に来ていただくたくさんのかたと、こどもたちの成長を喜び合うことができます。

成長に最も大切なことは、こどもの身体の発育に合わせ

て関心や興味を誘うおもちゃや遊具、そして、何よりも周囲の大人からの優しいまなざしや声掛けだと思えます。発達に伴い、いすから飛び降りようとなったり、日常品をいろいろ放り出してみたり、大人から見ると危険だったり「いたずら」と思うような行動が増えてきます。

大人の都合で何でも禁止や制止するのではなく、安全に気を配りながら見守り、こどもの「試したい気持ち」や「やる気」を大事にして、「からだを使うあそび」の時間や場所を設定してあげたいですね。

こどもは「あそび」の経験を通して自信や達成感を味わっています。そして、このような気持ちで、これからのいろいろなことに積極的に挑戦したり、取り組んだりする上で大切な原動力になります。